

豊かな自然環境を守り続けていくために 日本独自の知見を次代へ 第4回「生物多様性 日本アワード」公募開始について

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下当財団）は、本年3月2日より第4回「生物多様性 日本アワード」の公募を開始しますのでご案内申し上げます。

「生物多様性 日本アワード」は、2010年に名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されるのに先立ち、2009年に当財団が環境省との共催で創設したものです。本アワードは、2010年に創設した国際賞「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」と交互に隔年で開催しています。第4回を迎える今回も、日本国内の団体・組織・企業・個人を対象に、「生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組み」を広く公募し、優秀な事例を顕彰します。

現在、緑豊かな環境が、人々のくらしの発展に伴う原材料調達や乱獲によりおびやかされ、世界で約2万種以上の生物が絶滅の危機に瀕しています。このような状況の中、生物多様性の保全と持続可能な利用の主流化を目指し、さまざまな人々が知恵を出し合い、改善に向けて取り組んでいくことが求められています。日本においても、全国で維持されてきたローカルな価値や知見を守り、日本独自の方法論を展開、実践していくことが必要とされています。

COP10において採択された「愛知ターゲット」や2011年からスタートした「国連生物多様性の10年」から折り返し地点を迎える今年、本賞の公募において、よりフィールドに根ざした多様な取り組みが全国から寄せられることを期待しています。

イオンはこれからも、顕彰制度のほか、さまざまな活動を通じて生物多様性の問題に取り組んでまいります。



第4回 生物多様性日本アワード 応募要項

公 募 期 間：2015年3月2日（月）～5月29日（金）

応 募 資 格：日本国内の団体・組織・企業・個人であること。

※複数の団体・組織による共同の取り組みも対象となります。

対象の取り組み：◆生物多様性の保全

◆生物多様性の持続可能な利用

◆生物多様性の普及・啓発 以上3点に貢献する取り組み

結果発表等：グランプリ1件 表彰状、副賞200万円

優秀賞4件 表彰状、副賞100万円

スケジュール：9月に選考結果を発表し、10月に授賞式を実施する予定です。

主 催：公益財団法人イオン環境財団

後 援：環境省、国連生物多様性の10年日本委員会

株式会社共同通信社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

※その他詳細は、生物多様性オンラインマガジン「The MIDORI Press」

<http://www.midoripress-aeon.net/jp/>をご参照ください。

【ご参考】

【第4回 生物多様性 日本アワード 審査委員（五十音順）】

委員長	岡田 卓也	公益財団法人イオン環境財団 理事長
委員	赤池 学	ユニバーサルデザイン総合研究所 所長
委員	岩槻 邦男	東京大学 名誉教授
委員	黒田 大三郎	公益財団法人地球環境戦略研究機関 シニアフェロー
委員	香坂 玲	金沢大学 地域創造学類 准教授
委員	竹田 純一	東京農業大学 農山村支援センター 事務局長
委員	あん・まくどなると	上智大学大学院 地球環境学研究科 教授

【歴代受賞プロジェクト 一覧】

※優秀賞の順序は各回の発表資料の順序に同じ。第1回は部門順、第2回は地理上北部から、第3回は団体の五十音順。

回／年度		受賞プロジェクト名	実施団体名	活動 実施地域	実施団体の所在地 (企業の場合は本社所在地)
第1回 2009年	グランプリ	利用フィールド部門： 地域企業との協働による谷津田の保全	NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社／ 株式会社 田中酒造店	茨城県	茨城県他
	優秀賞	保全フィールド部門： 知床の生物多様性に関する取組	財団法人 知床財団	北海道	北海道
	優秀賞	保全リサーチ部門：「農」に着目した地域に おける生物多様性の保全のための活動	NPO法人 農と自然の研究所	福岡県	福岡県
	優秀賞	利用リサーチ部門： エコロジカルネットワークの研究と実践	鹿島建設株式会社	首都圏 全国	東京都
	優秀賞	保全プロダクト部門： 「コウノトリ育む農法」とコウノトリ共生米	コウノトリ育むお米生産部会／JAたじま／ NPOコウノトリ湿地ネット／豊岡市／ 兵庫県豊岡農業改良普及センター	兵庫県	兵庫県
	優秀賞	利用プロダクト部門： 生物多様性保全を含む10の調達指針	積水ハウス株式会社	全国	東京都
	優秀賞	保全コミュニケーション部門：「生物多様性に ついて考えてみませんか」定期の取り扱い	中日信用金庫	愛知県	愛知県
	優秀賞	利用コミュニケーション部門： 「ボルネオはあなたが守る！」キャンペーン	サラヤ株式会社	マレーシア 全国	大阪府
第2回 2011年	グランプリ	湿地環境の指標種としてのガン類の保護 およびその生息環境の保全・復元と 人間との共生をめざす活動	日本雁を保護する会	宮城県	宮城県
	優秀賞	茅場の保全から茅葺屋根まで ーヨシ原と共に生きるー	有限会社 熊谷産業	宮城県	宮城県
	優秀賞	クマ保護管理事業	NPO法人 ビッキオ	長野県	長野県
	優秀賞	山梨県小菅村における多摩川源流大学を中心 とした源流域の自然保全活動と教育活動	NPO法人 多摩源流こすげ	山梨県	山梨県
	優秀賞	野田自然共生ファーム	株式会社 野田自然共生ファーム	千葉県	千葉県
第3回 2013年	グランプリ	津波に被災した田んぼの生態系復元力に よる復興	特定非営利活動法人 田んぼ	宮城県 岩手県	宮城県
	優秀賞	太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査と 一連の協働・普及啓発活動	味の素株式会社	西日本太平 洋沿岸地域	東京都
	優秀賞	「竹紙(たけがみ)」の取り組み	中越パルプ工業株式会社	九州他	東京都 富山県
	優秀賞	綾の照葉樹林プロジェクト	てるはの森の会	宮崎県	宮崎県
	優秀賞	ネイチャー・テクノロジー創出のシステム構築	ネイチャー・テクノロジー研究会 (東北大学大学院環境科学研究科)	全国	宮城県

【歴代受賞グランプリの取り組み】



(取り組み)
地域企業との協働による谷津田の保全
 (団体)
NPO法人アサザ基金
白菊酒造株式会社
株式会社 田中酒造店

NPO法人アサザ基金は、茨城県にある湖沼「霞ヶ浦」の水質悪化により絶滅に瀕していた浮葉性植物である「アサザ」を再生するため、1995年より流域の学校、住民、農林水産業、企業、行政等が連携して実施する市民型公共事業「アサザプロジェクト」を開始しました。湖各地での自然再生や里山の保全、外来魚駆除事業、バイオマス事業などで持続可能な循環型社会の構築に取り組み、100年後にトキの舞う湖をめざしています。



(取り組み)
湿地環境の指標種としての
雁類^{がん}の保護および
その生息環境の保全・復元と
人間との共生を目指す活動
 (団体)
日本雁を保護する会

ガン類の渡り経路を国際調査で解明し、国内生息地での調査結果を「ガン類渡来地目録」等にまとめ、保全・啓発・提言活動を実施しています。近年はその生息地である水田に注目し、ガン類の生息地復元と水田の生物多様性を活かし、農業との共生をめざす「ふゆみずたんぼ」の提唱・普及に取り組んでいます。水田の湿地機能への関心を高める「^{かぶくりぬま}蕪栗沼・周辺水田」のラムサール条約湿地登録、ラムサールCOP10およびCBD・COP10での「水田の生物多様性に関わる決議」実現に貢献しました。



(取り組み)
津波に被災した田んぼの
生態系復元力による復興
 (団体)
特定非営利活動法人 田んぼ

宮城県気仙沼をはじめ、塩竈、南三陸、岩手県陸前高田を中心に生態系の復元力を活用した自然農法のシステム（ふゆみずたんぼ）で津波被災地の田んぼの復興を実現しました。1,200名を超える多様なボランティアの参加により、手作業で田んぼの復興を試み、抑塩にも成功しています。また各地で、生物多様性、水質、土壌内の微生物の活性度調査などの科学的なモニタリング実施により現況を把握し、その結果、被災した年の秋から豊かな収穫を享受することができました。